

競技上の注意

2022年度 北海道選手権大会（カデットの部）
審判長 松田 正信

現行の日本卓球ルールを適用して実施する。

1. ルールの概要

- ◇11ポイント5ゲームマッチ、3ゲーム先取で行う。
- ◇ゲーム開始後10分経過しても終了していない場合は促進ルールを適用する。但し、双方のポイント合計が18以上（9-9、10-8）の場合は適用されない。
- ◇ゲーム間の休憩時間は1分以内。
- ◇タオルの使用は、6ポイント毎と最終ゲームのエンド交替時のみ認められる。
- ◇相手競技者の打ったボールがプレーイングサーフェスに向かって飛んでいる時、自領コートに触れる前にエンドラインの内側で触れた場合はオブストラクションとなる。
- ◇サービスは、手のひらを開き自由に転がる状態でボールを置き一旦静止する。サービスを開始してからボールが打たれるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスより高く、かつサーバーのエンドラインより後方にあること。またその間、サーバーまたはパートナーの体の一部または着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。さらにボールが手から離れたらすぐにフリーアームをボールとネットの支柱との間の空間の外に出さなければならない。

2. ボール・ラバー・ラケット等について

- ◇ラバーは、ラケット本体より大きかったり小さかったりせず表面は平坦であること。ラバーは、公認マークやメーカーの商標・ロゴ等が、ラケット本体のグリップに最も近く、はっきり見えるように貼らなければならない。打球面に貼るラバーは、グリップを除く全面に貼るものとするが、指の当たる部分を避けて貼ることが出来る。
- ◇ラケット本体を覆っているラバーの表面、あるいは被覆されていない本体の表面は無光沢で、片方は黒、他方は片方の黒やボールの色とはっきり区別できる明るい色とする。
- ◇ゲーム中にラケットを破損した場合は、スペアラケットまたは競技領域内で手渡されたもので、直ちにプレーを再開すること。
- ◇ラバーは、現在 JTTA または ITTF が公認しているものでなければならない。
- ◇JTTA が未公認の外国製ラケット本体を大会で使用する場合は、競技開始前に審判長の許可を得なければならない。
- ◇試合中のインターバルの間（休憩時間を含む）は、ラケットはテーブルの上に置いておくこと。

3. 公認の接着剤、シート以外の使用は認められない。試合終了後のラケット検査において不正が判明した場合はその試合は負けとなり、試合前の検査で判明した場合は別のラケットで試合をすること。

ラバーの貼替は、決められたラバー貼替所で行うこと。

4. 競技の服装について

- ◇競技服装は、JTTA 公認ワッペンが付いたものであること。競技用シャツ（襟・袖を除く）、ショーツ、スカートの主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色でなければならない。（27.9.1 適用開始）
- ◇ダブルスのペアは、靴・靴下を除き同一のユニフォーム、同色の短パンを着用すること。
- ◇ゼッケンは、2022年度（公財）日本卓球協会指定のものを着用すること。
- ◇同じユニフォームによる対戦をさけるため、2種類以上のユニフォームを持参すること。

5. ポイントが決定した後は、速やかに次のサービスあるいはレシーブの体勢をとり、遅延行為を避けること。

6. アドバイスは、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみ受けることができる。

7. 準々決勝以降、公認審判員を配置しタイムアウト制を適用する。